





































































奄美交通

勝浦駐在所前

のりば

時刻表	勝浦駐在所前	勝浦駐在所前
●平日上り・日曜・休日運賃		
志願(平校時)		
行	登	勝仁屋(海山駅)迄
6:55	平校	6:12
8:30	平校	9:35
10:55	平校	11:05
12:05	平校	11:48
13:50	平校	13:15
14:50	平校	14:43
15:50	平校	15:48
16:40	平校	16:58
18:00	平校	17:43
18:50	平校	19:45

平吉仁屋一平津の運賃は500円です。  
運賃は平日は乗車券の有効期間(1日)以内(1人)に  
10名まで利用できます。

時刻表  
2017.02.20





















































ようこそ  
せとうちへ

おつかれさまです  
古仁屋まで後  
15分で着きます。

海ノサング、船帯魚の町せとうち



瀬戸内町







































## 重野安繹（しげのやすしゅく）

一八二七（文政十）年鹿兒島郡飯元町に生まれました。

若いころから学問に秀で、藩費を受けて江戸に出て学問を修めるほどでしたが、帰藩してまもなく、同僚の金の使い込みによって罪を得て、三二歳のときに遠島となります。

重野が乗った船は久慈に着き、上陸後、勝浦を経て阿木名に移り住みます。重野は阿木名の有志たちに要請されて、青少年に学問を教えるための私塾をこの海沿いの地に開きました。漢籍を講じるなどその教化は近隣の村々にも及び、阿木名は学者村として優秀な人材を輩出する集落として名を上げました。門弟として泰山英俊、鼎宮祥喜、森賢省、泉長旭、南喜美隣らが学んだそうです。

当時、重野は龍郷に流謫中であつた西郷隆盛とも旧交を暖め、相互に訪問しあつていました。また、土地の娘ウミを妻にし、一女の娘ウヤスをもうけます。安繹は天下に名を知られる文学者となつてから島を訪れて引き取つています。

六年あまりの阿木名での生活の後、許されて帰藩した重野は、西郷隆盛の後任の御殿役となり、生麦事件を発端とする薩英戦争の終結にむけて、イギリスと談判して決着へと導きました。その後、歴史家、漢学者として考証史学を推進して学問を深め、近代史学の礎を築きました。

日本ではじめての文学博士。東京帝国大学名誉教授。

没年一九一〇（明治四十三）年、行年八十四。

【参考文献】

坂口眞母「重野安繹評伝」松村智以「西郷隆盛と重野安繹」『瀬戸内町歴史編』















































































